（市立豊中病院）

【市立豊中病院の広報について】

（質問）

現在の市立豊中病院の広報の媒体や効果などの現状と評価について教えて下さい。また、課題認識があれば教えて下さい。

＜答弁＞

広報の媒体としては、病院のホームページ、年4回の季刊誌、病院情報誌「病院だより」。現状としては、毎月アクセス数をチェックし、ページランクや利用ブラウザを解析しており、今年度は4万件を超えるアクセス数があり、昨年度より1万件アップしています。
スマートフォンユーザーの急増によるこれに対応したホームページの作成が今後の課題です。

（質問）

市ではフェイスブックやユーチューブを活用した広報を行っており、自他ともに一定評価されているようですが、市立豊中病院でもそれらの広報媒体やツールを活用して情報提供を行うべきではないでしょうか。ご見解をお聞かせ下さい。

＜答弁＞

フェイスブックやユーチューブを活用した広報については、市の導入による活用状況や効果、個人情報などのセキュリティーやプライバシーの管理の問題などについて、アクセス数の増加や利用ユーザーの声など市に確認を行いつつ慎重に検討していく。

【来院者の意見や要望の反映について】

（質問）

昨年度、患者さんや付き添い、お見舞いで市立豊中病院を訪れる方から頂いたご意見やご質問、ご要望はどのようなものがあったのでしょうか。

＜答弁＞

意見箱に寄せられた意見ですが、施設・設備に関することが１０２件、診察・予約に関することが61件、接遇に関することが32件、給食に関することが１5件、その他が43件となっており、お褒めのご意見が43件あり、合計３07件となっています。

（質問）

様々なご意見やご質問、ご要望を頂いているわけですが、それらのご意見やご質問と、病院側の回答について、掲示板を設置して、いつでも来院者の方々が閲覧できるようにしてはどうかと思いますが、ご見解をお聞かせ下さい。

＜答弁＞

患者様やご家族の方から頂きましたご意見（要旨）とそれに対する当院の回答内容を、平成２５年（２０１３年）１０月中旬から実施予定の「院内情報サービス」（電子掲示板）を

使って公表していく予定です。

【災害時等における患者さんへの食料の備蓄について】

（質問）

市立豊中病院では、災害時等における食料、飲料水、更に薬剤などの備蓄を行っておられるようですが、改めて、それぞれ何日分の備蓄を常時確保されているのでしょうか。

＜答弁＞

備蓄食品・飲料水については患者食３日分。備蓄医薬品については入院患者分として約７日分、救急医薬品として約３日分あります。

（質問）

患者さんの食料となると、備蓄米や乾パンなど通常の緊急用食料では対応できないこともあるかと思いますが、そういった患者さんの緊急時の食料等の備蓄についてはどのようにされているのでしょうか。

＜答弁＞

各種病態向け流動食品やゼリー類などは院内で２０人×１０日分を確保しています。

【飛び込み出産について】

（質問）

市立豊中病院では、年間何件くらいの飛び込み出産が発生しているのでしょうか。また、その件数のここ数年の推移についても教えて下さい。

＜答弁＞

飛び込み出産の数とは必ずしも一致しませんが、市立豊中病院での受診が一度もなく、出産をされた方の件数は、平成２２年度６９件、平成２３年度７８件、平成２４年度７８件となっております。

（質問）

現在、医療機関で妊娠を診断された方を対象として、豊中市の場合、千里・中部・庄内の各保健センターで母子健康手帳と妊婦健康診査受診券の交付を行っていますが、妊娠の診断をされた医療機関で母子健康手帳を取得できるようにした場合、飛び込み出産の増加につながったり、何らかの妊婦へのリスクが高まることは予想されるでしょうか。医療機関として、また、医療の専門家としてのご見解をお聞かせ下さい。

＜答弁＞

医療機関で母子健康手帳を交付できるようになることによる、飛び込み出産の増加や妊婦へのリスクについての因果関係の分析は、行ったことがございません。ただし、医療機関で母子健康手帳を交付できるようになることで、妊婦のリスクが増すとは考えにくい。

【院内保育所について】

（質問）
　市立豊中病院内に設置されている院内保育所の概要について教えて下さい。

＜答弁＞
**　この事業は昭和46年からスタートし、現在は定員25人で、対象児童年齢は0～3歳となっており、通常保育は午前7時30分から午後7時30分まで行っております。また、延長保育は午後10時まで、更に月曜日・水曜日・金曜日は24時間保育も実施しています。**
また、この事業は委託により実施しており、年間の委託料は約4000万円です。

（健康福祉部）

【中核市になったことによる効果と課題について】

（質問）

豊中市は昨年度、中核市になったことで庁内的に様々な変化があったと思いますが、特に、健康福祉部においては移譲された事務や業務が多かったと思います。
中核市になったことによる効果と、なってみて出てきた課題について教えて下さい。

＜答弁＞

効果としては、対人保健サービスの一部を、従来は府市間で分担して提供していたものを、市が一貫して行うようになったこと、市関係各部局との連携がスムーズになったこと、市民に身近な保健所として、市民啓発に積極的に取り組んでいることが挙げられます。
一方で、課題としては次世代を担う人材の育成が挙げられます。具体的には、薬事・食品衛生・環境衛生など専門各分野については、府からの派遣職員が中核を担っておりそれ以外はほとんどが新規採用職員であることから、次を担う世代の育成が課題となっています。

【保健所における組織力、職員力の向上について】

（質問）

中核市になったことで、保健所が大阪府から豊中市に移管され、それに伴い、新たに職員を採用されたと思います。現在、保健所における組織力及び個々の職員の能力の向上が喫緊の課題だと思いますが、組織力、職員力の向上のために取り組んでこられたことと今後の展望をお聞かせ下さい。

＜答弁＞

これまでの取組みとしては、保健師合同研究会の実施（保健師間で各業務の情報共有など）、衛生・薬事については、大阪府・政令中核市の会議等により意見交換・情報共有・職員交流を図っています。
今後の展望としては、引き続き、研修会や会議などを通じて、大阪府、政令・中核市と情報共有しながら、知識や技術の蓄積に努めます。特に指導等の行政処分かかる業務については経験の積み重ねが重要であることから、同等他市との情報共有が必要です。

【マタニティバッジについて】

（質問）

市では、母子健康手帳の交付時にマタニティバッジを配布されていますが、配布をするに至った経緯と配布する目的について教えて下さい。

＜答弁＞

外見からは、妊婦であるかどうかわかりにくい場合があり、妊婦さんが外出する時に身につ

け、周りの人が気遣いを示しやすくするため、厚生労働省が全国的な周知に向けて開始しました。豊中市では平成18年10月から配布を開始。

（質問）
マタニティバッジを配布して以降、現在までのマタニティバッジの世間の認知度はどれくらいのものなのでしょうか。また、妊婦への配慮に変化はみられるのでしょうか。

＜答弁＞
全国の95．2％（平成24年度の全国の各市町村の取組み実績の調査）でマタニティマーク入りのグッズ配布を行っており、周知度は上がっていると思われます。
妊婦の約4割がマタニティバッジを使用している。

（質問）
マタニティバッジの世間の認知度を上げ、妊婦に対する配慮を積極的に促す方策を今後、考えたり、講じるべきと考えますが、見解をお聞かせ下さい。

＜答弁＞
今後はフェイスブックをはじめ、様々なメディアを通じ、周知してまいりたいと考えます。

【がん検診及び特定健康診査の受診率について】

（質問）
市では、様々な機会、手段を活用して、市民のがん検診や特定健康診査の受診率の向上に努めておられますが、昨年度からスタートした、抽選でカタログギフトをプレゼントすることで受診率や市民の意識にどれくらいの効果が生じたのでしょうか。

＜答弁＞
両検診とも「本企画において受診意欲が高まった」と答えた人が半数以上おり、一定の効果はあったと言えます。特に、がん検診分では、30歳、40歳の若い人の応募が4割であったことや初めて受診した人が4割強あったことも効果があったと考えています。
しかし、がん検診対象者数は約10万人いることを考えれば、応募数は2．5％にとどまっており、特定健診においても7万5千人対象であるため、1．6％と応募数が少ないことは課題です。

【がん検診分】
応募総数2468人　男性607人（25％）、女性1861人（75％）

年齢	**30歳・40歳代**	**984人（40％）**
	50歳代	**392人（16％）**
	60歳以上	**1092人（44％）**

この企画により受診意欲が高まった人	**1423人（58％）**
初めて受診した人	**1054人（43％）**

【特定健診分（国保）】
応募総数1233人　男性480人（39％）、女性753人（61％）

年齢	**30歳・40歳代**	**163人（13％）**
	50歳代	**176人（14％）**
	60歳代	**595人（48％）**
	70～74歳	**299人（25％）**

この企画により受診意欲が高まった人　645人（52％）
初めて受診した人　203人（16．5％）

（質問）
一方、市職員のがん検診及び特定健康診査の受診率の現状はどれくらいのものなのでしょうか。

＜答弁＞
豊中市の職員検診の受診率についてですが、肺がん検診が10．5％、胃がん検診が11．1％、乳がん検診が43．7％、子宮がん検診が25．2％、特定健診が41．7％となっております。

【放課後等デイサービスについて】

（質問）
昨年度の事業所数と利用者数及び、事業内容と事業効果について教えて下さい。

＜答弁＞
平成24年度末現在の事業所数は10事業所で、利用者数は、実人数274人、延べ人数2839人です。
事業内容としては、学校通学中の障害児に対して、放課後や夏休みなどの長期休暇中において生活能力向上のための訓練等を継続的に提供しています。
また、事業効果としては、生活能力向上のための訓練などを継続的に提供することにより、学校教育と相まって障害児の自立を促進するとともに、放課後の居場所づくりを推進しました。

（質問）
放課後等デイサービスと放課後子どもクラブの事業のすみわけ、事業内容の違い、事業目的の違い、利用者のニーズの違いなどについて教えて下さい。

＜答弁＞
【放課後デイサービス（児童福祉法）】
対象者：学校教育法上に規定する学校（幼稚園、大学を除く。）に就学している障害児

内容：①多様なメニューを設け、本人のニーズを踏まえたサービスを提供
１）自立した日常生活を営むために必要な訓練

２）創作的活動、作業活動
３）地域交流の機会の提供
４）余暇の提供
②学校との連携・協働による支援

目的、利用者のニーズ：
対象の障害児に対する個別の支援で、学校教育と相まっての自立の促進の訓練などを主眼としている。放課後等において、自宅に保護者が不在であることは要件としていない。

【放課後こどもクラブ（児童福祉法）】
対象者：放課後、帰宅しても保護者が仕事などで家庭に不在の市立小学校１年生から4年生（支援学級在籍児童は6年生）までの児童及び本市に居住する支援学校の小学部の児童

内容：放課後、帰宅しても保護者が仕事などで家庭に不在の対象児童に、遊びや学習等を通じて、集団の中で自主的かつ自発的な生活態度や習慣を養うために必要な保護及び指導を行い、児童の健全育成を図る。

目的、利用者のニーズ：
共働き家庭や母子父子家庭等に対する子育て支援施策のニーズと重要性が増す中での放課後における児童の健全育成を図っている。開設時間の延長や土曜日又は日曜日開設の実施など保護者の就労支援を含めたニーズに対応している。

（質問）
放課後等デイサービスを利用されている方とお住いのご近所づきあいや地域の方々とのつながりをどのようにして構築されているのでしょうか。また、健常者との関わりについて工夫されていることについて教えて下さい。

＜答弁＞
放課後等デイサービス事業所の支援内容として、地域住民を対象としたイベントの主催など、事業所所在地の地域との交流機会の提供を行っているケースがあります。
支援学校に通学している利用者の方が自分の住んでいる地域の学校を訪問して児童と交流する機会を持っている例もあります。

【乳幼児医療助成について】

（質問）
乳幼児医療助成費の昨年度の総額とその内訳（入院費、通院費）を教えて下さい。また、そのうちの豊中市の負担額を教えて下さい。

＜答弁＞
乳幼児医療費助成費の昨年度の総額は４億８２３７万円で、そのうち入院助成費が１億８７８万円で、通院助成費が3億７３５9万円です。また、そのうち豊中市の負担は、合計で3億３５１６万円、入院助成費に6097万円、通院助成費に２億７419万円と

なっています。

（質問）
昨年度の就学前、低学年（小学１年生～小学３年生）、高学年（小学4年生～小学6年生）、中学生それぞれの一人当たりの平均入院費用、通院費用は実費計算でどれくらいなのでしょうか。

＜答弁＞
一人あたりの医療費ですが、就学前は入院費５万5283円、通院費14万39円、０～４歳児は入院費79353円、通院費13万6810円、５歳～9歳児は入院費17582円、通院費10万519円、10歳～15歳児は入院費15634円、通院費6万7380円となっております。

（質問）
通院費助成を小学校６年生までに拡充した場合、中学校３年生までに拡充した場合、入院費助成を中学3年生までに拡充した場合、それぞれに新たに必要となる費用はいくらくらいでしょうか。

＜答弁＞
通院助成を小学校6年生まで拡大した場合、約４億３千万円、通院費助成及び入院費助成を中学3年生まで拡大した場合、約6億円必要となります。

（質問）
通院費助成や入院費助成の年齢を拡大したことで、過剰診療につながる恐れはないのでしょうか。また、過剰診療や過剰投薬による子どもたちの免疫低下などの悪影響が生じる恐れはないのでしょうか。

＜答弁＞
安心して子育てができるよう、必要なとき受診しやすい環境を整備しているが、制度拡充で過剰診療を誘発する可能性はあります。しかし安易な受診は、意識やモラルの問題であり、制度の拡充とは別の議論が必要と考えます。